

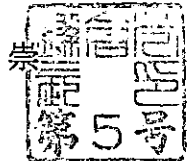
鎌総第3042号

令和7年(2025年)3月7日

鎌倉市議会議長

池田 実 様

鎌倉市長 松 尾



意見聴取会意見を踏まえた政策提言についての報告について

標記の件につきまして、別紙のとおり報告します。

事務担当

総務課総務担当(内線2242)

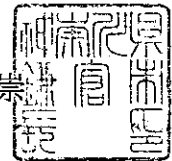


鎌こ支第 2345 号

令和 7 年（2025 年）3 月 6 日

鎌倉市議会議長 池田 実 様

鎌倉市長 松尾 崇



意見聴取会意見を踏まえた政策提言について（報告）

令和 6 年（2024 年）3 月 22 日鎌議調第 748 号「意見聴取会意見を踏まえた政策提言について」への対応については、本提言の内容を尊重し、その実施に努めることを令和 6 年 12 月市議会定例会において報告しましたが、改めて全庁的に取り組む内容について、次のとおり報告します。

【報告】

居場所づくりについては、既存施設の利活用や民間事業者等との連携、わかりやすい情報発信という観点を踏まえ、次の 2 つのキーワードを柱に、全庁的な課題として共有し取り組みを進めてまいります。なお、提言をいただいてから既に着手しているものもあり、これらも併せて報告いたします。

(1) 「ふやす」「広げる」 ～多様なこどもの居場所がつくられる～

どのような場所を居心地のよい居場所と感じられるかは、世代や生活環境によっても異なることから、こうした多様なニーズを踏まえた居場所づくりを進めることとしています。特に、こども・若者を取り巻く環境が目まぐるしく変化していることから、こども・若者にとって安全で安心して過ごすことができる、多様なこども・若者のニーズを踏まえた居場所づくりにスピード感を持って取り組みます。

令和6年7月に腰越子育て支援センターを開設したことにより、市内5行政区域に1つずつ支援センターを設置することができましたが、依然として乳幼児のいるご家庭からの、お子さんと一緒に自由にゆっくりとくつろぐことができる場所、また子育てについての悩みや困りごとなど、ちょっとしたことでも気軽に相談ができる場所を求める声は多く寄せられています。これらの声に応えるために、現在、大船地域において、増設の検討を始めており、腰越子育て支援センターと同様に民設民営で行う予定です。また、市内で子育て支援活動を実施している方々との連携により、市内の自治町内会館など既存施設を活用した、子育て中の親子向けの居場所づくりを試行的に実施するほか、放課後子どもひろばの日曜開所について、小学生以外の利用の可能性を含め、指定管理者等と協議検討を進めています。

さらに、既存公共施設の活用として、老人福祉センターや生涯学習センターの空きスペースや空き時間の活用について、夕方の時間帯以降でのこども・若者の利用が可能となるよう検討を進めます。また、市営住宅集約化や学校施設整備などの事業を進める過程においても、身近な地域での新たな交流やつながりを得られる拠点となるような居場所づくりの可能性について検討を進めます。

(2) 「つなぐ」 ～こどもが居場所につながる～

多様な居場所に関する情報をまとめ、マップやポータルサイトで可視化し、対象年齢やその場の様子や過ごし方などの情報を分かりやすく整理した情報発信を行います。子どもや保護者等が、自分のニーズに適した「行きたい」「居たい」と思える場所を容易に見つけられ、新たな交流やつながりが広がるような発信を目指します。具体には、現在、市ホームページに画像でしか公開できていない子育て関連施設マップを、鎌倉市防災情報マップ（かまくらわが街マップ）に掲載し、令和6年度中の公開に向けて準備を進めています。ホームページについては、対象年齢や目的など自分のニーズに適した必要な情報を容易に取得することができるよう内容のカテゴリ分けを行うとともに、検索サイトから直接アクセスが可能となるようタイトルの修正を行うなど、情報が分かりやすく整理されたものとなるよう、リニューアルの準備を行っており、令和7年度中の公開に向けて作業を進めてまいります。

居場所づくりの検討

(1) ふやす／広げる ～多様なこどもの居場所がつくられる～

- 1 子育て支援センターの増設 ⇒ 乳幼児親子向けの居場所として、大船地域に民設民営で設置
- 2 自治町内会館の空きスペース・空き時間の活用 ⇒ 子育て支援活動実施団体等と連携して実施
- 3 放課後子どもひろばの日曜開所 ⇒ 小学生以外の利用の可能性について、指定管理者等と協議検討
- 4 老人福祉センター等の利活用 ⇒ 放課後時間帯でのこども・若者の利用の検討
- 5 市営住宅集約化事業等における居場所の創出 ⇒ 多世代交流の場としての活用等の検討

(2) つなぐ ～こどもが居場所につながる～

- 1 居場所マップによる可視化 ⇒ 庁内共通GISを活用して居場所MAP作成（かまくらわが街マップに掲載）
- 2 欲しい情報に簡単につながる
⇒ 現行の子育て情報ポータルサイトを改良
対象年齢や目的など自分のニーズから簡単に検索が可能となり容易に必要な情報を取得することができる